

(別紙4-1)

令和6年度 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	390500155		
法人名	特定非営利活動法人とにもあゆむ会		
事業所名	グループホームこぶなと		
所在地	岩手県花巻市下小舟渡262-1		
自己評価作成日	令和7年3月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームこぶなとは、イギリス海岸に近く、散歩コースとして利用しています。 「笑う・ほめる de 元気になる」を理念に掲げ、元気に過ごしていただけるように「あの手この手」で工夫しております。毎日欠かさず体操を行った事により、体調を崩す利用者が減りました。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)		1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)		1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)		1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1 ほぼ全ての利用者が				
		○	2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホームこぶなと

作成日: 令和 7年 3月 1日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	3	地域に出向いて活動に参加する事が少なく、事業所から地域貢献や地域交流が出来ていない。	地域の一斉清掃やイベント等の情報をキャッチし、利用者と参加できるイベントには積極的に参加する。	2ヶ月に1回の運営推進会議や広報等にて情報を確認し、職員のみ又は利用者と一緒に参加できる企画については計画し参加する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングの際に理念を唱和している。それをよい施設づくりに活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員様より情報を頂き、地域の催しに利用者様と職員が参加している。花巻市の一斉清掃には職員が参加している。	・運営推進会議等で地域交流については聞いておりました。大変良い取り組みだと思いますので、今後も続けてほしいと思います。 ・運営推進会議に地域住民が参加する事により地域の情報が得られ利用者との交流を生み出している。 ・2ヶ月に1回の会議に参加し民生委員として情報交換をしている。 ・高齢者サロンで行われたマジックショーに参加していただいた。1名でしたが職員も付き添われるなど、手厚い支援と地域につながろうとする施設の姿勢がうかがわれた。 ・地域の方々と共に暮らしていると感じられて安心できます。	・引き続き、地域とのつながりを大切に共助の関係ができると良い ・今後も地域の人達にも協力していただきながら、進めてほしいですね。
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症という病気についての発信が出来なかった。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、利用者様の状況報告をしている。民生委員様からは地域の情報、保険者や包括支援センターからは、制度についてや、他法人の情報などを得てサービス向上に活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	花巻市のサイト「ケア倶楽部」に登録し花巻市からの情報を得ている。制度等不明な点は都度担当者へ確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中に限り玄関の施錠はしていない。又、身体拘束も行っていない。定期的に勉強会を行い職員全員が身体拘束をしないケアを実践している。	・身体拘束が必要ないケアの実践には知識の積み重ねが必要だと思います。引き続き定期的な勉強会を続けてください。事例検討やロールプレイとかどうですか？ ・グループホームならではのここにあった対応をしていると感じている。 ・年に数回、施設に入る。いつもオープンで家庭的雰囲気であり、例えば、身体拘束などを行われていない事を感じる。 ・スタッフの方々は利用者さんを自分の家族のように接しているようで安心です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行っている。又、入浴時は皮膚観察を行いケアの方法に細心の注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者の入所申し込みについては、担当者と連絡を取りあい、不明な点は都度確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様及び家族様が内容を十分に理解した上で契約している。又、料金の改定などの際も、全ての家族様へ文書にてお知らせし理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時、管理者や職員が会話の中から意見や要望を聞き出し、すぐ対応するよう心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期の面談で意見や提案を聞き、対応が可能なところは施設運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内・社外の研修や会議への参加実績や、勤務状況等を見える形で給与等に反映させている。働く時間や休み等、希望に合わせて柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	FTケア（介護記録ソフト）等で、法人内・法人外の研修を案内している。対面、オンラインでの研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	合同勉強会や研修に参加し、同業者とネットワークづくりをしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様から不安な事や要望等を聞き、安心してサービスを利用できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等に耳を傾け、安心してサービスの利用を開始できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様に生活の様子等の聞き取りをしながら必要な支援に繋がるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯たたみ等、手伝って頂き、必要とされる意欲を引き出すよう務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族様の希望等から仏壇を居室に置いたり、本人の欲しい物などを持参している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を話題にするなど、色々と思い出してもらうように会話を工夫している。	・他者との関係は、思考や感情に刺激を与え、安心感や満足感を与える効果があると言われているので、今後も工夫しながら続けてほしいと思います。 ・行事レクや外出の機会をとられて、様々な話題で多くの会話をされていると思う。 ・以前は、二十日会というサロン会に利用者さんが参加してもらった事もあります。職員の方にも声掛けをしてほしい。 ・職員から利用者さんのエピソードなどを耳にします。よく話を聞かれ昔話などしているようです。 ・本人は難聴なので、会話に時間がかかって大変だと思います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の不満、要望等に耳を傾け、トラブルにならないように声掛けしたり、席替えするなど孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院となっても、退院時は相談を受ける対応を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中から希望や願いをくみ取る事、他、日常生活の様子や生活歴からアセスメントして、その人にとって何が大切かをより深く理解するよう検討している。	・回想法や自分史語りなど、ゲーム形式で行っても楽しいと思います。 ・一人ひとりに寄り添って支援している。 ・加齢とともに発信力も弱くなってきているだろうが、これからも、コミュニケーションを取りながら、利用者の思いに寄りそっていただきたい。 ・温泉好きだった本人の為に入浴剤使用のアイデアが生かされ満足していると思う。	ご家族の意向も聞きながら利用者本人の希望や思いを大切に支援ができるとよい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様より、これまでの暮らしを聞き取りサービス開始前に情報共有し把握している。サービス開始後も、記録や申し送り等で情報を共有し経過等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のADLやその時の健康状態に合わせて、支援の方法を変え状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートを活用し、情報を共有している。そこから出た課題は常に話し合い、実践して新たなケアプランを作成している。課題整理はスタッフ会議で現状維持かどうか確認し判断できる場となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートと個別記録に記入し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせた対応を心掛け接している。何か求めているのか声掛けを行い確認している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	薬局や訪問理容、歯科等の地域資源を活用し、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様対応が可能な場合は協力していただき、難しい場合は施設対応を行っている。情報提供書を作成し、バイタルの情報や体調等を主治医や薬局に報告・相談して連携をとっている。	・日々の体調変化など、入居者の様子が分かるのは施設職員だと思いますので、引き続き医療機関との連携をお願いします。 ・日々の様子を正確に伝える事は重要な事である。家族も安心するのではないだろうか。 ・その人に合った対応をしており、今後ともかかりつけ医に連携を取りながら適切な対応をしてほしい。 ・体調や行動の変化は、小さなことでも伝えてもらえると家族は安心すると思います。 ・かかりつけ医特になく、当ホームで近くの委員を探してくださり助かりました。	適切な医療が受けられるよう、引き続き医療機関と連携して対応いただきたい。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護で気付いた事を記録し、看護師へ報告・相談を行っている。看護師から必要な処置の方法を学び支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関へ状態報告する為に情報提供書を作成し報告している。退院後に再び受け入れできるように入院先の看護師や相談員と連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人の意向を直接確認できる機会は少ないですが、入所時には家族様より聞き取りを行っている。その際、施設として「できること」「できないこと」を説明している。又、可能な限り、医療機関と連携し看取り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の講習を受けた職員が、講習を受けていない職員を対象に勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者は水害に備え普段から天気の変化を注視している。地域での避難先、同法人施設への避難先を全職員が周知している。その他、火災を想定した訓練を年2回行い、利用者様の安全確保を最優先とした動きを毎回確認している。	・落ち着いて避難ができるよう、起こりうる状況を想定した訓練やマニュアルの見直しを行い、有事に備えていただきたいと思います。 ・避難計画、及び訓練を定期的 to 実施し、職員間で周知が図られている。 ・施設の防災訓練をきちんと行っているようなので引き続きお願いしたい。 ・この施設だけでなく、同法人施設との連携も考えて、対策を取っている事は望ましいと思います。 ・施設にはヘルメットがありましたし、訓練済みのようなので安心できます。	・浸水想定区域である為、水害を想定した避難行動を毎年確認いただきたい。 ・地域の方々の協力が必要だと思います。
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が不快な思いをしないように声掛けには十分注意意識してケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で悩み事や、希望等があった場合には本人の思いに寄り添い、可能な限り希望に沿った過ごし方が出来るように対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	共同生活の中で、利用者様の生活スタイルが個々に違うので、利用者様の希望に合った過ごし方に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服装を選んでいる。お出掛けする時は好きな洋服に着替え支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションの中で、おやつ時間に「手作りおやつ」を企画し、利用者様と楽しみながら作っている。	・素晴らしい取り組みだと思います。手作りする事で、市販のおやつとは違う温かみや美味しさを味わえると思います。今後も続けてください。 ・広報を通じて利用者が楽しんでいる様子が伝わってくる。 ・毎日は大変ですが手作りおやつ企画など今後も続けてほしい。 ・「おいしく食べる 元気になる」ことを大切にこれからも工夫して、「食を楽しんでほしい。 ・食べる事が一番楽しみだと思うので、この企画は大賛成です。	生きる楽しみの一つだと思うので、継続して取り組んでほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量や、食べやすく刻んで提供している。体調管理の方法として体重測定を定期的に行い体重管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは自分でやっているが、最後の仕上げ磨きや出来ない方については職員が介助し支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様へ声掛けによる促しや、様子観察し訴えのある時や、そわそわして動きだしそうな時はトイレへ誘導し支援している。	・排泄の自立支援は、時間と根気を要する取り組みだと思います。今後も入居者の気持ちに寄り添い、安心して排泄ができるよう支援をお願いします。 ・適切に支援している ・安全面に気を付けて大変ですがお願いしたい。 ・限られた職員で対応するが、大変な時間もあると思いますが、これからも早目に促したり工夫して自立支援を望みます。	・残存した力をできるだけ長く生かせるよう支援していただきたい。 ・入居されている方の年齢も段々高くなりますが、これからも宜しくお願いします。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操を行っているが、便秘が続く時は主治医に相談し下剤の処方等をお願いして対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴は午後と決めている。個々の体調に注意し、ゆっくり入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の状態に合わせて、ソファや居室で休めるように支援している。休む時の声掛けにも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や申し送りノートを確認し、個々の服薬状況を把握している。処方薬の変更があった場合には体調管理に注意し様子観察している。変化がある場合には主治医や薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割作りとして「食器拭き」や「洗濯ものたたみ」等を手伝ってもらっている。日中の活動として「読書」「塗り絵」「パズル」等を楽しんでいる。月1回程度「手作り昼食会」を企画し調理を手伝ってもらったり、苑庭での食事会を実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「お花見」「花巻まつり見学」「ドライブ」等の企画を行い気分転換を行っている他、地域でのイベントの見学などにも出掛けている。	・季節ごとの外出行事は、高齢者にとって生活の質を大きく向上させるだけでなく、生きがいや楽しみを見つける機会になります。今後も工夫を凝らし、入居者にとって思い出に残るような素敵な行事を提供してください。 ・広報の写真を通して、とても楽しそうな様子が伝わってくる。 ・季節、季節の行事には参加するようにお願いしたい。 ・これからも、外出等で生活に変化を付けてあげて下さい。 ・近場でも、外の空気を吸うだけでも気分が上がると思います。	体調に留意して多くの外出帰化を作ってほしい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	運営推進委員様からのコメント	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人として、お金の管理は家族様にお願いしている為、利用者様の希望を聞いて家族様に購入をお願いしたり、施設で立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話をしたい希望がある場合は、職員が代わりに施設の電話を使用し、家族と電話できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者様の作品を飾ったり、廊下には行事の写真やレクリエーションの写真を掲示しており、歩行訓練等で廊下を歩く際に写真を見ながら話題作りに工夫している。	・入居者と一緒に季節の飾りつけをしたり、思い出の品を飾るのも良いのではないだろうか。また、入居者や家族との意見交換会を開催し、空間づくりに関する意見を聞くのも良いと思います。 ・日常生活の中で、自然に会話が生まれるような空間づくりに努めている。 ・通信に写真など提供しており利用者の元氣な姿を見ることができ、今後も続けてほしい。 ・季節の変化に合わせた飾りがしてあります。 ・ホールに入ってすぐ季節感のある飾りが目を引きます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座って一人でのんびりしたり、疲れた時は居室で横になり休んでいる。天気の良い日は外にあるウッドデッキで外気浴を行い利用者様同士で会話を出来るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって大切な物や、今迄使用していた馴染みの物等を持ち込んで頂き、居心地の良い環境で過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が「できること」については声掛けや見守りで様子観察を行っている。日によっては介助が必要な場合もある為、日々の状態を観察し、自立した生活が送れるように工夫している。		